

香取遺産

Vol. 34



▲城山一号墳出土環頭大刀

古墳時代も6世紀ごろになると、ヤマト王権は各地の有力首長を国造に任命してそれぞれの地方を治めさせるようになります。『隋書』東夷伝倭国条には国造治下の国が120あったとされており、6世紀末から7世紀初めの推古朝ごろには倭政権の地方支配体制として全国的に確立していたと思われます。千葉県下では須恵国造、馬来田国造、上海上国造、伊基国造、武社国造、菊麻国造、阿波国造、印波国造、下海上国造、千葉国造の存在が文献から知られています。当時、香取地区の大半は下海上国造の統治下にあったものと思われま

す。昭和38年11月小見川地区の城山で、県立小見川高等学校の建設工事に先立ち一基の前方後円墳の発掘調査が行われました。全長70m、墳頂部には円筒ハニワ、中段には人物、馬、家などのハニワ列をめぐらしていました。主体部は自然石を積みあげた全長6mの横穴式石室で遺骸を安置する玄室（長さ4.5m、幅1.3m）から環頭大刀、頭椎大刀、円頭大刀、鹿角装刀子その他の鉄刀類、鉄鏃、衝角付胃、掛甲、鉄地金銅張鞍金具・杏葉・鏡板付轡・雲珠、壺鏡、銀製空玉、金銅製耳環、銀製耳環、金銅製鈴、金銅製冠、三角縁神獸鏡など、多くの武器、武具、馬具、装身具類が出土しました。また、木棺材と思われる分厚い板片が発見されており、遺骸

は、多くの副葬品とともに木棺に納められていたものと思われま

す。古墳は調査後消滅しましたが、出土遺物は昭和44年4月に「城山一号墳出土品」として県指定有形文化財（考古資料）に指定されました。現在、香取市文化財保存館で常設展示されています。